

しろいさぎ しろいわた

しろさぎ^{でんせつ}伝説

ぶん・まき こうし
え・いぐち ぶんしゅう



偕成社

カスタム版 どうわ絵本

- | | | | |
|----|------------------------------------|----|--|
| 1 | カターエフ作 西郷竹彦・文 太田大八・絵
七いろのはなびら | 11 | 日本むかし話 岸 なみ・文 福田庄助・絵
おにのよめさん |
| 2 | アンデルセン作 神沢利子・文 岩崎ちひろ・絵
あかいくつ | 12 | ビルマむかし話 君島久子・文 二俣英五郎・絵
とらより つよい うさぎ |
| 3 | 日本神話 三好碩也・文と絵
やまたのおろち | 13 | 中国むかし話 君島久子・文 太田大八・絵
やまいっぱいの きんか |
| 4 | グリム作 村岡花子・文 吉崎正巳・絵
ヘンゼルと グレーテル | 14 | ミハルコフ作 宮川やすえ・文 鈴木義治・絵
にせびっこの うさぎどん |
| 5 | アンデルセン作 曾野綾子・文 遠藤てるよ・絵
おやゆびひめ | 15 | アーキム作 西郷竹彦・文 野崎貞・絵
あかぎつねものがたり |
| 6 | 日本むかし話 松谷みよ子・文 朝倉 摂・絵
てんぐのかくれみの | 16 | 日本むかし話 前川康男・文 吉井 忠・絵
きつねと にんぎょうつかい |
| 7 | ラモリス作 岸田鈴子・文 岩崎ちひろ・絵
あかいふうせん | 17 | ファチオ作 前田三恵子・文 柿本幸造・絵
サンタおじさんの いねむり |
| 8 | 日本むかし話 奥田準一・文 三好碩也・絵
ももたろう | 18 | ロシアむかし話 西郷竹彦・文 滝平 二郎・絵
そらをとぶふね |
| 9 | ペロー作 那須辰造・文 朝倉 摂・絵
シンデレラひめ | 19 | イタリアむかし話 坂本鉄男・文 岩崎ちひろ・絵
にじのみずうみ |
| 10 | トベリウス作 岸田鈴子・文 中谷千代子・絵
きいちごのおうさま | 20 | しらさぎ伝説 榎 皓志・文 井口文秀・絵
しろいさぎ しろいわた |

* 幼い子の心を、のびやかに育てる絵本 *

* 4才から7才むき *

PUBLISHED BY

KAISEI-SHA

8793-304200-0904

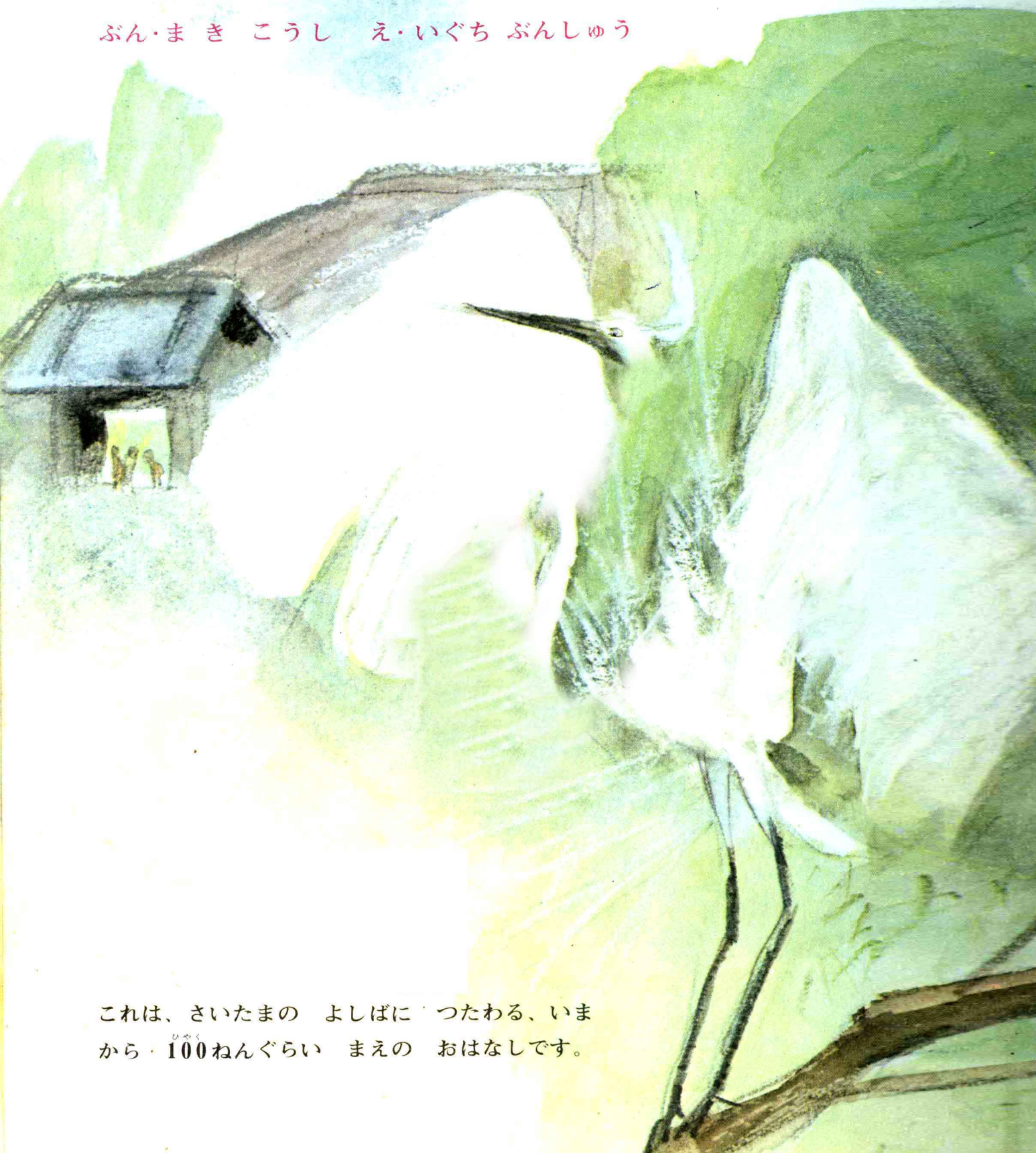
偕成社・カスタム版どうわ絵本(20)しろいさぎ しろいわた ©昭和45年5月5日 発行
文・榎 皓志 絵・井口 文秀 発行者・今村 広 印刷所・大日本印刷株式会社

定価 380円

発行所 東京都新宿区市ガ谷 偕成社
砂土原町3の5・振替 東京1352

しろい さぎ しろいわた

ぶん・ま き こうし え・いぐち ぶんしゅう



これは、さいたまの よしばに つたわる、いま
から ^{ひやく}100ねんぐらい まえの おはなしです。



ちばの　せきやどむらの、

ことさんの　いえの　うらには、

おおきな　たけばやしが　ありました。

はるに　なると、　しらさぎが、

みなみの　くから　とんできて、

なかよく　すを　つくります。

まいおり、まいあがる

しらさぎは、　しろい

しろい　はなのよう。

たけばやしは、　まるで

はなぞのようでした。







あるばん、しらさぎの はなぞのに、
おおかぜが ふきあれました。

「すから おちないで。こさぎたち。」

「はねが おれるわ。ひどい かぜ。」

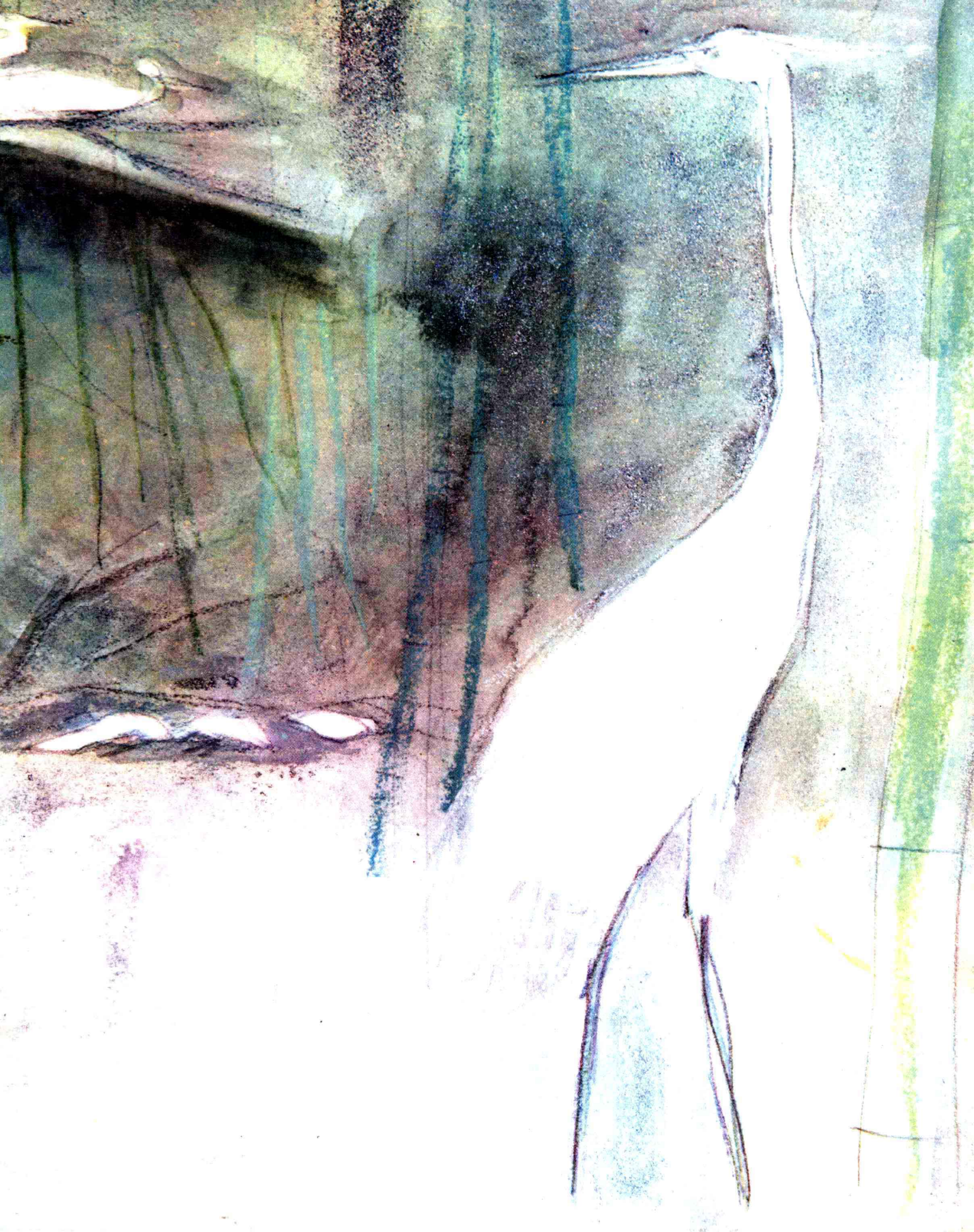
ことさんは、すこしもねむれません。

そとに できることも できません。

「はやく、かぜよ やんどくれ。」

「あさよ、はやく きてください。」

ことさんは、いのりつつけました。





あさに なりました。

ことさんは、たけばやしに
はしっていきました。

「ああ！ やはり おちて
しんでるわ！」

でも、一わの こさがが、

あしを おられて、

うずくまっていました。

「しっかりしなさい。

あたしが、きつと

なおしてあげるから。」

ことさんは、そつと

だきあげました。



ことさんは、どじょうや たにしを
とってきて、せっせと たべさせました。
てあつく かんびょう するうちに、
こさは、ようやく たちあがれるようにな
りました。ひどい びっこは ひくけれど、
ちゃん ちゃん はねて、ことさんに
ついて あるくように になりました。
「ちゃんよ、はやく げんきに おなり。」
「はやく とぶのよ、そらたかく。」

ちゃんは、いぬや ねこたちとも、
すっかり なかよしになりました。





けれど ちょんは、なかなか
とべるようには なりません。
ことさんが たべさせなくては、
えさを とることも できません。
「わたしが およめに いったら、
ちょんは、しんでしまうわね。」

ことさんが、およめに
いくことに きまったのは、
十七さいの じゅうななときでした。

「ちょんだけは、
おいてくわけには いかないわ。」



およめに　いく　ことさんと、
みんな、わかれを　おしめます。

「おわかれですね、おことさん。」

ねこも、いぬも、とりたちも、

かわの　きしまで　ついてきて、

やさしかった　ことさんに

さようならを　いいました。

「では、みなさん　ごきげんよう。」

かごが　ふねに　のりました。

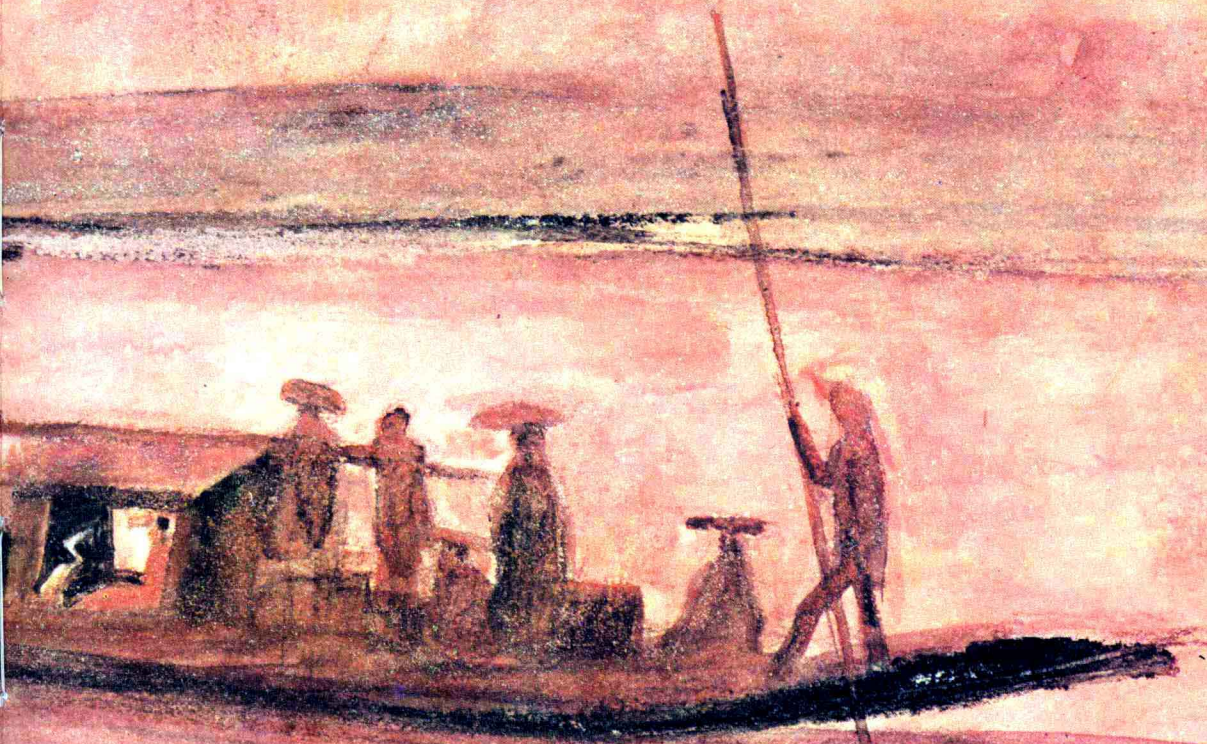
はなよめすがたの　ことさんの

ひざに、ちよんは　うれしげに

だかれて　いきました。

あかい　ゆうひが　きらきらと、

とねの　かわなみに　ゆれてます。





ふねを あがった はなよめは、
かごに ゆられて すすみませう。
「あんれ、きれいな よめさんだ。」
「しらさぎみたよな よめさんが、
しらさぎ だいて よめいりだ。」
みちばたに たつ むらびとは、
かおを みあわせ、おどろきました。
ながなが つづく ぎょうれつは、
ゆうぐれの なかに きえました。
しろい しろい しらさぎと、
しろい はなよめの わたぼうしが
しずかに ゆられて いきました。

